

製品名: ATG4A ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe85321**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,IP
反応性	人間
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	-
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	0.05% アジ化ナトリウム、0.05% 保護タンパク質、50% グリセロールを含む TBS で精製された抗体。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:1000,IHC 1:50-1:100,IP 1:10-1:20
分子量	Calculated MW: 45 kDa; Observed MW: 45 kDa

抗原情報

遺伝子名	ATG4A ATG4A; APG4A; AUTL2; Cysteine protease ATG4A; AUT-like 2 cysteine endopeptidase;
別名	Autophagin-2; Autophagy-related cysteine endopeptidase 2; Autophagy-related protein 4 homolog A; hAPG4A
遺伝子 ID	115201.0
SwissProt ID	Q8WYN0
免疫原	ヒト ATG4A の合成ペプチド

背景

システインプロテアーゼ Atg4 は、オートファゴソーム膜の生成と制御に極めて重要な役割を果たします。Atg4 は、Atg8 ホモログのカルボキシ末端を切断し、グリシン残基を露出させることで、E1 様酵素 Atg7 に脂質化を誘導します。Atg8 ホモログは、E2 様酵素 Atg3 に転移され、Atg8-PE 複合体を形成します。オートファジーの後期段階では、Atg4 は PE を切断することでこの脂質化を逆転させ、Atg8 ホモログを再利用することができます。

研究分野

オートファジー

画像データ

ATG4A 抗体を使用した Jurkat 溶解物中の ATG4A のウエスタンブロット分析。

